

2010年11月ニュージーランド 世界ロゲイニング選手権レポート

開催地ニュージーランド (NZ) データ (2010年10月現在)

- ・ NZの人口：約6544万人 (日本の約50%)
- ・ NZの面積：約64万平方メートル (日本の1.7倍)
- ・ NZの通貨：NZドル 1ドル=62~66円



チーム：Japan (チームときわ走林会)

パートナー：岡部潤さん

地図：縮尺 1/40,000 等高線間隔：20m

競技時間：24時間



1. 準備

・事前に用意したもの

バックパック (Salomon XA25)・シューズ (Inov8 F-Lite220) など用具一式

ジェル*6本+予備1本、アミノバイタル*4本+予備1本、梅塩飴・チョコいくつか

・現地で用意したもの

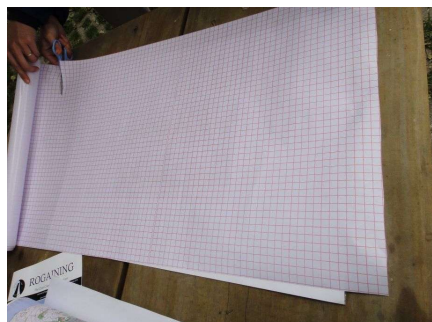
サングラス、ドライフルーツ、ナッツ、ミューズリーバー*6本、おにぎり*3つ

レッドブルコング*1本

・現地での準備

買い物：上記の買い物を街で行ってから会場入り。

スタート前に地図をもらったあとのコーティング：多くのチームはプラスチックケース（厚手のポリ袋）に入れるか、ビニールテープでの補強だったが、僕らのチームはオーストラリアではみんなやっているというブックカバーでの補強を行った。図書館の本に貼ってあるあれ。接合面が少ないため水漏れが少なく、プラスチックバックよりはもちろんビニールテープよりも丈夫。特に有刺鉄線付きの柵越えをするときに防具としても使える（プラスチックバックだと破れてしまう）。



2. プランニング

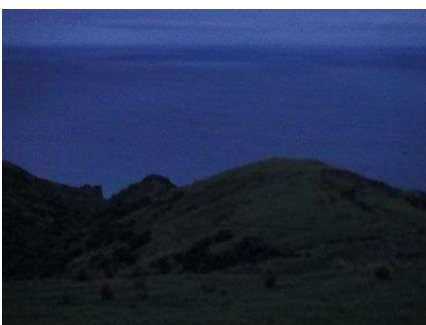
・ループを作る

まずチェックポイントをいくつかのエリアに分ける。そしてそれぞれのエリア内のチェックポイントを結び、ループを作っていく。それぞれのループごとの行程をプランすることで各エリアの難易度を考えて全体のプランを固めていく。



・ナイト区間

夜は山岳地帯を避けて平らで移動が楽なところを行きたくなるものだが、実は逆。広大で平らなエリアをまっすぐ進むのは難しい。尾根や谷などラインが使える部分を夜間に進んだ方がよく、今回の場合は夜間に山岳地帯を進むプランをとった。



・終盤ループ

夜が明けてからのゴールまでの6時間くらいで回る最終エリアのループ。体力の低下などで思うように進めないことを考慮してなるべくショートカットできるようにプランする。そもそもショートカットが可能なエリアを終盤に持ってくるように全体のプランを構築する。



3. レース

・ナビゲーション

出だしのナビゲーションは比較的順調だった。牧草地帯の平らなエリア。遠くからも平らな地形が把握しやすい。しかし1/40,000、等高線間隔20mの地図はマイルドな地図表現に見えるが実際の移動速度はずいぶん時間がかかるということに気付く。特に等高線が詰まってからの山岳エリアでは特に強くそう感じた。

夜間のナビゲーションは作戦通りラインが使える山岳エリアを回ったのでナビゲーション自体はあまり難しくなかったが、寒さと眠気による体力低下の影響で思うように進めなかった。また山岳エリアでも山頂がのっぺりとしたエリアでのナビゲーションは難しくミスをした。

一番苦労したのは夜明け前から突入した海岸沿いの森の残った斜面でのナビゲーション。高さの確認が難しく、ほとんどのチェックポイントでミスした。



・コントロール位置

平坦な牧草地帯、オープンの山岳エリアでのコントロール位置はさほど苦労しなかった。オリエンテーリングの感覚で問題なかった。が、先述した森の残った斜面にあるチェックポイントは難しかった。地図では明確に示されていない小さな谷に入り込んでしまったり、谷を降りきれずに手前（上流部）でウロウロしてしまったり。オープンエリアでは視認できる地形が見えなくなるので注意深く観察し地図を解釈する必要がある。



・ペース配分

岡部さんが怪我を抱えていることもあり終始早歩きペースだったので移動での体力はさほど問題がなかった。が、夜間は予想以上に寒く、雨もちらついたので体力を一気に奪われた。明るくなって気温が戻ってくるまでは眠気もあり移動速度が一気に落ちてしまった。

・ハッシュハウス

会場にあり、会場は競技エリアの中心にあったのでツー・ストップも可能だったが、より高得点を狙うためにワン・ストップを選択。スタート後ちょうど12時間となる真夜中頃の立ち寄りを予定した。夕方から突入した山岳地帯での移動速度の低下とハッシュハウスまでに戻ってくる平坦地でのナビゲーションが難しく、少し遅れて2時前の到着。3時前までの1時間弱の休憩。そこで再開後のプランを練り直し、食事や暖かい飲み物を多めに取り、冷えた体を温め直した。ハッシュハウスを出た直後に飲んだレッドブルコングは凄い効き目で眠気が一気に飛んだ。

4. 課題

24時間口ゲインを楽しむという意味ではあまり課題はなかった。が、移動ペースの見積り甘さと夜間の気温低下への対策は不十分だった。それと終盤のミスで制限時間ぎりぎりとなってしまったため怪我持ちの岡部さんに負担をかけてしまった。2人で1チーム。

競技としてより上位を狙うならば体力面での課題がより鮮明になってくるだろう。

